

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	さんりんしゃ（児童発達支援センター）			
○保護者評価実施期間	令和 7 年 1 月 30 日 ～ 令和 7 年 3 月 31 日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18世帯	(回答者数)	15世帯
○従業者評価実施期間	令和 7 年 2 月 26 日 ～ 令和 7 年 3 月 31 日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7 年 3 月 31 日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	乗馬療法や水治療を継続的に活用した療育を行っています。	ルールを学び守ることや、身体機能の学習や向上に取り組んでいます。	丁寧なアセスメントを行い、内容を職員間での共有に努めます。
2	お子様の状態に合わせて、小人数での活動をおこなっています。	個別の部屋があり子どもの状況に応じた個別対応ができます。（クールダウン、机上作業など）	共通のアセスメントツールの活用をし、職員研修の充実を図る。
3	児童発達支援を終了したお子様の将来像をイメージしやすい環境があります。（隣接する法人にて、就学児～大人の方までがサービスを利用している）	面談時などに、実際に聞かれる就学～大人の方々の困り感をお伝えしたり、活動の様子を見る事で、お子様の将来像を具体的にイメージできるよう取り組んでいます。	継続して保護者面談を行いながら、内容の充実を図れるよう努めます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用家族同士の交流の機会を提供できていません。	職員の兼務（保育所等訪問支援）、療育（乗馬療法・水治療）に人手を必要とする為にマンパワーが不足している現状があります。	計画的な時間の確保によるペアレントプログラムの実施を検討します。
2	勤務形態のばらつきが多く、全体でまとまった話し合いを行うことが難しい現状があります。	常勤・パート等の勤務形態や送迎・勤務時間のばらつきにより、全職員が集まる機会をなかなか持てない現状があります。ケース会議も一部の職員で行うことが多く利用児童に対する共通認識を高める際に課題となっています。	経験に富んだ職員が直接指導・助言を行いながら、共通認識を高めていく。 行動観察等のインフォーマルなアセスメントを用いることが多いが、標準化されたアセスメントを学ぶ機会を設ける等、研修を行いながら、共通言語を増やしさらに質の高い支援を目指す。
3	専門職の人員確保が難しい現状があります。	より支援を充実させる為、複数の専門職が必要と考えます。	実習生の受け入れや見学の受け入れ等を行いながら、事業所の取組をしってもらえるよう努め、一緒に働く仲間を募集します。